



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月10日

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊部 幸顕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長 (氏名) 森山 茂

TEL 03-3661-1039

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	24,786	2.1	1,843	93.3	1,854	91.5	1,190	105.9
22年3月期第2四半期	24,272	0.5	953	△1.3	968	4.5	578	△25.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	28.79	—
22年3月期第2四半期	13.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	73,631	28,111	38.0	676.81
22年3月期	70,971	27,995	39.4	676.77

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 27,994百万円 22年3月期 27,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
23年3月期	—	9.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 有

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	0.5	2,900	83.1	2,800	90.8	1,800	79.7	43.52

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 48,290,173株 22年3月期 48,290,173株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 6,928,324株 22年3月期 6,924,148株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 41,363,536株 22年3月期2Q 41,374,186株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) 企業結合等に関する注記	13
4. 補足情報	15
(1) 生産、受注及び販売の状況	15
(2) 主要製商品売上高	17
(3) 新薬パイプラインの状況	18

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期までのわが国経済は、一部の企業で業績改善の動きが見られるものの、雇用情勢は依然として厳しく、また、デフレや円高の進行等、先行き不透明な状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、本年4月に薬価改定が行われるとともに、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進などの医療費抑制策が引き続き推進されており、またOTC医薬品（一般用医薬品）市場におきましても、消費低迷により市場競争が激化するなど、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は247億86百万円（前年同四半期比2.1%増）となりました。一方、利益につきましては、営業利益18億43百万円（前年同四半期比93.3%増）、経常利益18億54百万円（前年同四半期比91.5%増）、四半期純利益11億90百万円（前年同四半期比105.9%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の海外売上高比率は、12.1%（前年同四半期0.1%）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①医療用医薬品事業

最重点領域である消化器官用薬に営業力を一層注力し市場拡大に努めてまいりました。その結果、潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール」は、海外での売上高も含め、順調に売上を拡大いたしました。しかしながら、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック」、H₂受容体拮抗剤「アシノン」などの製品は、本年4月の薬価改定の影響を受けて苦戦いたしました。また、商品の一部が仕入先企業と販売先企業の合併に伴い、22億56百万円の減収となりました。なお、アステラス製薬株式会社との国内における機能性ディスペプシア治療剤「Z-338」の共同開発及び共同販売に伴う契約金収入を当セグメントの売上に計上しております。

以上の結果、当セグメントの売上高は148億30百万円（前年同四半期比3.2%増）となりました。

②コンシューマーヘルスケア事業

主力製品である「コンドロイチン群」は、テレビCM及びそれに連動した店頭販促やキャンペーン等の効果もあり、順調に売上を拡大いたしました。また滋養強壮剤「ヘパリーゼ群」においても、「コンドロイチン群」に引き続き、本年度からテレビCMを全国的に展開したことにより製品認知度が向上し、大幅に売上を拡大いたしました。一方で、植物性便秘薬「ウィズワン群」等の一部製品は市場競争の激化の影響を受けて苦戦いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は98億53百万円（前年同四半期比0.5%増）となりました。

③その他

保険代理業・不動産賃貸収入等により、当部門の売上高は1億2百万円（前年同四半期比2.0%増）となりました。

なお、当第2四半期は平成22年9月16日にBiofac Esbjerg A/S（所在地：デンマーク）の85%の株式を取得し、子会社化いたしました。同社はコンドロイチン原料の専門メーカーで、同社の子会社化は品質に優れたコンドロイチン原料の安定調達の確保とバルクビジネスへの進出を主目的としたものであります。また、一昨年より臨床試験（フェーズⅢ）を実施してまいりました当社のオリジナル新薬である「Z-338」につきまして、平成22年9月29日に厚生労働省に製造販売承認申請を提出いたしました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況について)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は736億31百万円となり、前連結会計年度末対比26億60百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が255億7百万円で、前連結会計年度末対比6億54百万円の減少、固定資産が481億23百万円で、前連結会計年度末対比33億14百万円の増加となっております。流動資産の増減の主なものは、現金及び預金の増加7億19百万円、受取手形及び売掛金の減少2億96百万円、商品及び製品等のたな卸資産の減少1億5百万円であります。また、固定資産の増減の主なものは、有形固定資産の増加1億52百万円、後述のBiofac Esbjerg A/Sの連結開始に伴うのれんの発生による無形固定資産の増加28億44百万円、投資その他の資産の増加3億17百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末の負債は455億20百万円となり、前連結会計年度末対比25億43百万円の増加となりました。その内訳は流動負債が286億8百万円で、前連結会計年度末対比72億84百万円の減少、固定負債が169億12百万円で、前連結会計年度末対比98億28百万円の増加となっております。流動負債の増減の主なものは、支払手形及び買掛金の減少16億34百万円、短期借入金の減少57億40百万円であります。また、固定負債の増減の主なものは、長期借入金の増加100億81百万円であります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は281億11百万円となり、前連結会計年度末対比1億16百万円の増加となりました。これは四半期純利益の計上11億90百万円、その他有価証券評価差額金の減少8億24百万円、前期の期末配当の実施3億30百万円等によるものであります。この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ1.4%低下し、38.0%となりました。

なお、Biofac Esbjerg A/Sの連結にあたりましては、同社の第1四半期末である平成22年9月30日をみなし取得日としているため、当第2四半期連結会計期間においては、同社の貸借対照表のみを連結しております。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、期首残高対比7億19百万円増加し、41億61百万円となりました。これは、投資活動によるキャッシュ・フローが50億39百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが20億76百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが38億2百万円のプラスであったためであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間は20億76百万円の資金の増加となりました。これは税金等調整前四半期純利益の計上18億9百万円、減価償却費の計上11億31百万円、売上債権の減少4億38百万円、仕入債務の減少18億72百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間は50億39百万円の資金の減少となりました。これは有形固定資産の取得による支出3億96百万円、無形固定資産の取得による支出1億48百万円、投資有価証券の取得による支出15億18百万円、新規連結子会社株式の取得による支出31億55百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間は38億2百万円の資金の増加となりました。これは短期借入金の減少68億4百万円、長期借入れによる収入120億52百万円、長期借入金の返済による支出10億11百万円、配当金の支払3億29百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

国内医薬品事業を取り巻く厳しい環境は第3四半期以降も継続するものと考えられ、売上高につきましては、前連結会計年度対比微増に止まる見通しです。

一方、利益面につきましては、昨年子会社化いたしましたTillotts Pharma AGの業績が引き続き順調に推移しており、また第3四半期以降は国内医療用医薬品事業において収益性の高い製品の売上拡大が見込まれることから、下記のとおり前連結会計年度対比増益を見込んでおります。

なお、平成22年11月1日に公表いたしました通期連結業績予想は変更しておりません。

通期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	50,745	1,584	1,467	1,001	24.21
当期予想 (B)	51,000	2,900	2,800	1,800	43.52
増減額 (A-B)	255	1,316	1,333	799	—
増減率 (%)	0.5	83.1	90.8	79.7	—

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

ア. 簡便な会計処理

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して一般債権に係る貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末のたな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③有形固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

イ. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

ア. 会計処理基準に関する事項の変更

①「資産除去債務に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益がそれぞれ0百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が64百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は71百万円であります。

②「企業結合に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

イ.表示方法の変更

四半期連結損益計算書

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,293,674	3,574,449
受取手形及び売掛金	12,858,460	13,155,446
商品及び製品	3,373,997	3,552,591
仕掛品	568,046	409,792
原材料及び貯蔵品	2,162,076	2,246,915
その他	2,277,848	3,263,161
貸倒引当金	△26,161	△40,378
流動資産合計	25,507,942	26,161,978
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,398,537	6,281,481
土地	11,073,101	11,039,227
その他(純額)	3,381,620	3,380,079
有形固定資産合計	20,853,259	20,700,787
無形固定資産		
のれん	13,154,848	10,211,136
その他	1,316,722	1,415,869
無形固定資産合計	14,471,570	11,627,005
投資その他の資産		
投資有価証券	7,907,323	7,161,741
その他	4,964,265	5,394,975
貸倒引当金	△72,774	△75,111
投資その他の資産合計	12,798,814	12,481,605
固定資産合計	48,123,644	44,809,398
資産合計	73,631,587	70,971,376
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,495,067	5,129,930
短期借入金	18,965,731	24,706,028
1年内償還予定の社債	1,200,000	1,200,000
未払法人税等	688,099	750,104
賞与引当金	862,335	924,694
返品調整引当金	178,946	169,984
売上割戻引当金	209,207	227,721
その他	3,008,611	2,784,069
流動負債合計	28,608,000	35,892,532
固定負債		
社債	1,300,000	1,400,000

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
長期借入金	14,849,481	4,768,459
退職給付引当金	182,013	173,305
資産除去債務	71,450	—
その他	509,108	741,855
固定負債合計	16,912,054	7,083,620
負債合計	45,520,054	42,976,152
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,414,745	5,414,745
利益剰余金	25,377,414	24,517,465
自己株式	△7,294,492	△7,290,512
株主資本合計	30,091,065	29,235,096
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,112,074	△1,287,411
繰延ヘッジ損益	5,351	5,960
為替換算調整勘定	9,688	41,578
評価・換算差額等合計	△2,097,035	△1,239,872
少数株主持分	117,502	—
純資産合計	28,111,532	27,995,224
負債純資産合計	73,631,587	70,971,376

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	24,272,495	24,786,272
売上原価	11,288,420	9,279,877
売上総利益	12,984,074	15,506,395
返品調整引当金戻入額	186,086	169,984
返品調整引当金繰入額	187,600	178,946
差引売上総利益	12,982,560	15,497,432
販売費及び一般管理費	12,028,909	13,654,217
営業利益	953,650	1,843,215
営業外収益		
受取利息	1,107	1,186
受取配当金	136,647	152,498
出資金運用益	—	118,530
その他	43,859	65,893
営業外収益合計	181,614	338,109
営業外費用		
支払利息	118,670	139,502
シンジケートローン手数料	—	73,000
為替差損	—	82,655
その他	48,125	31,486
営業外費用合計	166,796	326,643
経常利益	968,468	1,854,681
特別利益		
固定資産売却益	—	15,485
投資有価証券売却益	36,762	—
受取補償金	30,987	—
受取和解金	40,000	—
貸倒引当金戻入額	3,511	10,041
特別利益合計	111,260	25,526
特別損失		
固定資産除却損	1,908	4,464
投資有価証券評価損	—	2,125
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	63,834
買収調査費用	84,788	—
特別損失合計	86,697	70,424
税金等調整前四半期純利益	993,032	1,809,784
法人税等	414,585	618,906
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,190,877
四半期純利益	578,447	1,190,877

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	993,032	1,809,784
減価償却費	1,144,526	1,131,792
のれん償却額	—	258,509
退職給付引当金の増減額(△は減少)	11,278	8,707
受取利息及び受取配当金	△137,754	△153,684
支払利息	118,670	139,502
投資有価証券売却損益(△は益)	△36,762	—
売上債権の増減額(△は増加)	155,729	438,198
たな卸資産の増減額(△は増加)	△143,428	291,363
仕入債務の増減額(△は減少)	71,174	△1,872,997
前払年金費用の増減額(△は増加)	129,670	129,312
その他	△140,322	560,029
小計	2,165,814	2,740,517
利息及び配当金の受取額	138,066	153,890
利息の支払額	△118,726	△143,037
法人税等の支払額	△250,445	△675,256
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,934,708	2,076,115
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△471,520	△396,061
無形固定資産の取得による支出	△124,923	△148,200
投資有価証券の取得による支出	△801,502	△1,518,323
投資有価証券の売却及び償還による収入	322,997	153,355
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△11,588,690	△3,155,752
その他	△29,370	25,236
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,693,010	△5,039,746
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	12,916,870	△6,804,744
長期借入れによる収入	616,000	12,052,310
長期借入金の返済による支出	△1,628,394	△1,011,574
社債の償還による支出	△100,000	△100,000
自己株式の取得による支出	△8,237	△3,979
配当金の支払額	△329,836	△329,872
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,466,402	3,802,139
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△119,283
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	708,100	719,224
現金及び現金同等物の期首残高	2,670,679	3,442,345
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,378,779	4,161,569

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(所在地別セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

(海外売上高)

前第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、医療用医薬品及びOTC医薬品を中心に事業活動を展開していることから、報告セグメントを「医療用医薬品事業」と「コンシューマーヘルスケア事業」にしております。

「医療用医薬品事業」では、医療用医薬品の研究、開発、製造、販売を行っております。

「コンシューマーヘルスケア事業」では、セルフメディケーションに係るOTC医薬品、健康食品、医薬部外品及び化粧品の製造、仕入、販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療用 医薬品事業	コンシュー マーヘルス ケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,830,718	9,853,433	24,684,152	102,120	24,786,272	—	24,786,272
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	123	123	154,124	154,247	△154,247	—
計	14,830,718	9,853,557	24,684,275	256,244	24,940,520	△154,247	24,786,272
セグメント利益	2,818,751	1,100,490	3,919,241	61,242	3,980,483	△2,137,268	1,843,215

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,137,268千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 企業結合等に関する注記

当第2四半期連結会計期間(自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)

取得による企業結合

1. 被取得企業の名称及びその事業の内容、企業結合を行った主な理由、企業結合日、企業結合の法的形式、結合後企業の名称、取得した議決権比率及び取得企業を決定するに至った主な根拠

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 Biofac Esbjerg A/S
事業の内容 医薬品原料の製造・販売業

②企業結合を行った主な理由

品質に優れたコンドロイチン原料の安定調達の確保とバルクビジネスへの進出による当社グループの「コンドロイチン事業」の一層の拡大を図るために実施したものであります。

③企業結合日

平成22年9月16日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

Biofac Esbjerg A/S

⑥取得した議決権比率

85%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社のコンシューマーヘルスケア事業では、近年、注目を集めているコンドロイチンを1959年という極めて早い時期に医薬品として市場に送り出し、経営資源を重点的に投入し市場拡大に努めてまいりました。

Biofac Esbjerg A/Sは、医薬品やサプリメントに使用されるコンドロイチン原料の専門メーカーで、独自に開発した製造技術により高品質のコンドロイチン原料を製造しており、当社グループにとって、コンドロイチン原料の重要な調達先です。また、同社は、コンドロイチン原料をアメリカを始め世界に供給しています。

この度のBiofac Esbjerg A/Sの子会社化は、当社グループのコンドロイチン事業の成長戦略に必要な、コンドロイチン原料の安定調達の確保に欠かせないものであり、バルクビジネスへの進出においても有益なものであります。

2. 四半期連結会計期間及び四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結累計期間における四半期連結損益計算書には、Biofac Esbjerg A/Sの業績を含んでおりません。

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金を対価とする取得	3,505,048千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	181,370千円
取得原価		3,686,418千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

3,202,222千円

(2) 発生原因

取得原価が取得した資産及び引き受けた負債の純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却

5. 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に及ぼす影響の概算額(のれんの償却後)

売上高 128百万円

経常利益 77百万円

四半期純利益 20百万円

なお、影響の概算額については監査証明を受けておりません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	7,793,677	0.4
コンシューマーヘルスケア事業	9,392,249	4.8
報告セグメント計	17,185,927	2.7
その他	—	—
合計	17,185,927	2.7

(注) 1. 金額は正味販売価格換算で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

②受注実績

当社グループは販売計画並びに生産計画に基づいて生産を行っており、受注生産は行っておりません。

③商品仕入実績

当第2四半期連結累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	1,854,624	△59.0
コンシューマーヘルスケア事業	793,887	△7.4
報告セグメント計	2,648,511	△50.7
その他	—	—
合計	2,648,511	△50.7

(注) 1. 金額は実際仕入額で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

④販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	14,830,718	3.2
コンシューマーヘルスケア事業	9,853,433	0.5
報告セグメント計	24,684,152	2.1
その他	102,120	2.0
合計	24,786,272	2.1

(注) 1.セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2.金額は消費税等抜きで表示しております。

(2) 主要製商品売上高 連結

(単位: 百万円, 端数切捨表示)

区分	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	増減(△)比(%)
1. 医薬品事業	24,172	24,684	2.1
(1) 医療用医薬品事業	14,365	14,830	3.2
アサコール	—	3,129	—
アシノン錠	3,531	2,970	△15.9
プロマック顆粒15%・D錠75	2,975	2,632	△11.5
マーズレン-S顆粒・ES錠	2,611	2,096	△19.7
新レシカルボン坐剤	446	416	△6.7
アビテン	389	364	△6.5
ペオン錠80	475	357	△24.7
ランデル錠10・20・40	367	310	△15.4
その他	3,568	2,551	△28.5
(2) コンシューマーヘルケア事業	9,806	9,853	0.5
コンドロイチン群	3,519	3,644	3.6
ヘパリーゼ群	832	991	19.2
ウィズワン群	627	607	△3.2
ハイゼリーB群	345	374	8.4
ドルマイシン ドルマイコーチ軟膏群	299	276	△7.5
その他	4,183	3,959	△5.4
2. その他の事業	100	102	2.0
合計	24,272	24,786	2.1

(3) 新薬パイプラインの状況

I. 国内開発状況

1) 消化器系分野

(平成22年11月10日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
申請中	Z-209	自社	大腸内視鏡前腸管洗浄	改良製剤	導入 ビジクリア改良製剤
申請中	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅢ	Z-103/ ポラブレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック 効能追加
フェーズⅠ/Ⅱ	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR α 受容体作動作用	導入
フェーズⅡ 準備中	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出調整製剤	自社グループ オリジナル アサコール 効能追加

2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー 効能追加
フェーズⅢ	Z-521	自社	低リン血症性くる病	リン酸補充	自社オリジナル 未承認薬 開発支援対象
フェーズⅡ	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮 作用 エタノール・ ステロイド配合剤	導入

II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ポラブレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入 プロマック
フェーズⅢ (中国)	Z-206/ メサラジン	共同開発 (Tillotts Pharma)	潰瘍性大腸炎	pH依存型放出調整製剤	自社グループ オリジナル アサコール
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅡ終了 (北米)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK2 受容体拮抗作用	自社オリジナル